

平成 31 年度 ASEAN 諸国野球指導者養成プログラム遠征募集要項

1 概要

I B A F（国際野球連盟）に加盟している国と地域は現在 124 である。因みにサッカーは 209、陸上競技は 212、バスケットボールは 214 の国と地域が連盟に加盟しているため、野球は世界的に見て、まだまだ人口が少ない競技である。2020 年東京オリンピック以降も継続種目となるよう野球普及の取組みは必須である。大学準硬式野球界で何ができるのか。それは、国際交流・野球途上国への野球普及活動と考える。

2 目的

野球選手の養成には、選手としての適性や身体能力等、個々の能力を見抜き、磨き、伸ばす指導者の存在は重要なファクターであり、特に野球途上国への野球の普及並びにレベルの向上のためには、必要不可欠であるとともに指導者養成は喫緊の課題である。

2019 年は ASEAN 諸国を含む複数の国（インドネシア・フィリピン・シンガポール・ベトナム・マレーシア・ブルネイ・スリランカ・東ティモール）から野球指導候補者を計 40 名程度、インドネシア国において受入れることにより、日本野球における指導方法を合宿形式で教授することで各国の指導者養成の拡大を図る。

また、国際交流及び野球教室をすることで当連盟選手の競技力向上を目的とし、21 世紀の時代にふさわしい国際感覚豊かな人材の育成を目指す。さらに各国の文化歴史的な背景を学び、21 世紀を生きる世代の社会的貢献の必要性を実社会に巣立つ前に実感する。

3 海外選手の目標

① 到達目標

海外選手が野球先進国である日本の指導方法及び指導を通じての人材育成方法を理解し、自らの野球指導者としてあるべき姿を描き、自国において実際の指導等に繋げることができる。

② 行動目標

(1) 野球のルールについて、説明することができる。

(2) 基本的な投球動作、捕球動作、打撃動作について説明することができる。

(3) 野球における基本的な人間心理について説明することができる。

(4) 野球指導における基本的な心構えについて、説明することができる。

(5) 指導方法の P D C A サイクル（注）について、説明することができる。

(6) 日本での指導方法について、実際に指導を受けること等を通じて、自身をモデルとしながらその指導方法を理解する。

(7) 母国での野球教室において、日本で学んだ指導を実行し、自らの指導方法について、今後の計画、実施、評価及び改善策について考えることができる。

4 遠征場所

インドネシア共和国 ジャカルタ

ゲロラ・ブン・カルノスタジアム又はラワマングンスタジアム

（2018 アジア競技大会使用球場）

5 遠征日程（予定）

8月3日（土）～8月14日（水）10泊12日

6 遠征内容（予定）

- ① 日本野球における指導方法を取り入れた合同練習及び野球談義
- ② 野球教室（ASEAN諸国の選手・現地日本人会の少年野球選手）
- ③ 野球キャラバン（小中学校を訪問し野球を伝えるplay catchプロジェクトを実施）
- ④ レセプションパーティー（現地スポーツ省・野球連盟・日系企業など）
- ⑤ 企業訪問（現地企業及び日系企業）

7 派遣選手の募集要項

- ① 本遠征目的及び目標を特に理解する者
- ② 国際的視野のある者
- ③ 将来的に海外事業に興味を持つ者
- ④ グローバルな視点で社会的貢献を考えている者
- ⑤ 野球というスポーツを通じ、日本に限らず、世界を視野に入れて選手及び指導者を目指す者
- ⑥ 理学療法士やコンディショニングコーチ、トレーナーなどスポーツの分野に携わることを目指す者

以上のいずれかに該当する遠征参加希望者に対し選抜するが、単に技術の優秀な選手を選考すると言うだけでなく、遠征の目的及び目標を特に理解し、自ら国際貢献の意志をもつ者を選考する。

8 選考人数（予定）

選手10名程度 主務・マネージャー各1名 トレーナー・学生コーチ（若干名）

9 遠征費用（一名分）（予定）

18万円程度

内訳 航空費10万円・宿泊費6万円（1泊6千円）・食費2万円

※現時点における最大の費用負担額（予定）。現在、アジア交流に向けた補助金を申請中であり、その審査に通過した場合は、上記金額より減額予定。

10 申込について

別紙遠征申込用紙に必要事項を記入し、下記までに提出ください。

① 提出期限 3月29日（金）必着

② 提出先 〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-7 5階 全日本大学準硬式野球連盟内

東都大学準硬式野球連盟 長島宛

11 選考方法

書類選考とする。但し、必要に応じて春季リーグ戦の開会式終了後に面接を実施する。

12 各国野球史

【インドネシア】

人口 2.5 億人の世界第 4 位の国である。元々ソフトボール文化であり、ソフトボールの第一線の選手が引退した先に野球があった。本格的な国際大会参戦は 1990 年後半からでまだ歴史が浅く、現在野球人口は約 2 万人である。2016 年に名球会の山崎裕之氏と山田久志氏による野球教室が開かれた。2018 年にアジア競技大会がインドネシアで開催され、野球場も改修された。

現在、インドネシア野球を支えるのはインドネシア国家青年スポーツ省の公認アドバイザーである野中氏である。

人気スポーツは、サッカー、バドミントン、バスケットボールである。

【フィリピン】

アジア第二集団（第一集団 日本・韓国・台湾・中国）の最上位クラスであり、野球の歴史は長い。マニラにあるリサール・メモリアルスタジアムは、ベブルースがプレーした数少ない球場として知られている。歴史的にアメリカの影響が強く、第二次世界大戦前後まで、野球はフィリピンの国技であった。しかし、同じアメリカンスポーツであるバスケットボールが市民権を得ていったことにより、野球は衰退してしまっている。とはいえ、野球の裾野は定着しているため、リトルリーグを中心に競技人口は、2 万人を超えるとされている。2015 年に名球会の北別府学氏と駒田徳広氏による野球教室が開催された。

現在、フィリピン野球を支えている人物は、フィリピンナショナルチームアドバイザーの板倉氏である。

人気スポーツは、バスケットボール、ボクシング、ビリヤードである。

【シンガポール】

野球の歴史は浅く、野球人口は非常に少ない。しかし、近年ではアジアンベースボール大会出場、和歌山県・京都府・東京都高野連と交流試合の実績がある。現在、シンガポール代表監督は内田監督である。内田監督は、野球に馴染みの薄い現地で 1998 年に少年野球チームを発足させ、シンガポールに住む全ての子どもたちに野球を普及しよう、野球を通じて国際交流、健康、チームワーク、挨拶、集中力を学ぼうと呼びかけている。2016 年に名球会の東尾修氏と立浪和義氏による野球教室が開催された。

人気スポーツは、水泳、サッカー、卓球である。

【ベトナム】

野球の歴史は浅く、野球人口は非常に少ないが、1995 年頃に日本人が熱心に野球を伝えにきたと言われている。ベトナムナショナルチームとベトナム野球連盟が設立されていないようであるが、2017 年に名球会の北別府学氏と駒田徳広氏、山田久志氏と和田一浩氏による野球教室が開催された。さらに企業のサポートによる日越野球協会が 2018 年に設立され、2019 年に当協会が名球会を招き、北別府学氏と駒田徳広氏による野球教室が再び開催された。

人気スポーツは、サッカー、バスケットボール、水泳部である。

【マレーシア】

野球の歴史は浅く、野球人口は非常に少ないが、マレーシアナショナルチームのコーチを務める坂本氏が 30 年近くに渡って野球を伝えている。2016 年に名球会の山田久志氏と古田敦也氏による野球教室が開催され、2018 年に埼玉西武ライオンズからマレーシア野球連盟に野球用品が寄付された。

人気スポーツは、バドミントン、サッカーである。

【ブルネイ】

野球というスポーツが存在しない。しかしながら、ソフトボールは男女ともに盛んである。2018年に名球会の山田久志氏と駒田徳広氏による野球教室が開催され、参加者はソフトボール選手であったが、技術は高く、体格も良いため、本プロジェクトを通して、国として本格的に野球を導入するきっかけとなってもらいたい。

【スリランカ】

2002年から青年海外協力隊の野球派遣が始まり、現在のスリランカ野球人気を支えている。2012年に日本とスリランカ国交樹立60周年を記念して野球場が建設され、年間を通して世代別等の国内大会を実施している。また、現地野球選手が学校等を廻り、野球のルールや技術を教えて国内の野球普及活動を行っている。さらに、国際審判の資格を持ち日本の甲子園大会で審判を務めたスジューワ氏があり、現在スリランカアマチュア野球連盟技術委員長も兼任している。

人気スポーツは、クリケット、野球、バレーボール、ラグビーである。

【東ティモール】

2002年にインドネシアの占領から独立した国であり、人気スポーツはサッカーであり、野球というスポーツが存在しない。他の人気スポーツはバスケットボール、ハンドボールである。

13 広報戦略

現地メディア等を利用し、野球及び準硬式球を広めASEAN諸国等へ浸透させていく。

14 準硬式野球の普及

東南アジア諸国においては雨季時期の雨量が多く、皮の硬式球の耐久度合いが低い。また皮の硬式球購入に際しても国内では入手が困難なため、雨天では軟球を使用して練習をすることも多い。このような状況下において、ゴム製の準硬式球の普及が期待でき更に、準硬式野球の普及も可能と考えられる。

以 上

H31年度 ASEAN諸国野球指導者養成プログラム遠征申込書(8月用)

大 学 名			1・2・3・4・5・6 部リーグ
フリガナ			顔写真をはる位置 1. 縦 36～40mm 横 24～30mm 2. 本人単身胸から上 3. 裏面のりづけ
氏 名			
生 年 月 日			
現 住 所	〒 ー		
携 帯 電 話 番 号			
メ ー ル ア ド レ ス			
ポ ジ シ ョ ン (複 数 回 答 可)			右投・左投 右打・左打・両打
身 長 ・ 体 重	cm	kg	セールスポイント
応募理由			
具体的な指導プラン (現地でどのような指導ができるのか。又は考えているのか。を記載してください。)			
高 校 名			
中 学 在 籍 チ ー ム	(例)〇〇シニア・〇〇中軟式野球部		

過去の成績(本人が出場したもの)

学年	年度	大会名	チームの成績	個人の成績

	団 長	監 督	コ ー チ		